

3. 八都県市における気温分布の現状と推移

3. 1 既存の気温測定状況

公的な機関が継続的に行っている気温・風向・風速等の観測データは表3-1に示す種類のものがある。このうち、気象官署及びアメダスにおける気象観測は、「地上気象観測指針」（気象庁）に基づき、観測露場、観測方法、観測機器の精度等が定められており、全国一律の水準で観測が行われている。一方、大気汚染常時監視測定局の気温観測は観測主体毎に観測方法が異なっており、データの精度にばらつきが含まれている。

そのため、気温の絶対値を比較や長期的な推移を把握するにあたっては、測定データの精度保証がなされており、かつ過去30年近い期間の時間値データが蓄積されているアメダスを用いることが適しているといえる。

アメダスの過去25年データを用いて、八都県市を含む地域の気温上昇の経年的変化を分析し図3-1～3に整理した。

表3-1 既存の気温等の観測網

名称等	所管	概要
気象官署 (気象台・測候所)	気象庁	八都県市管内（離島除く）には8ヶ所設置されている
アメダス (地域気象観測システム)	気象庁	八都県市管内（離島除く）には53ヶ所、このうち36ヶ所では気温、風向・風速等を観測している
大気汚染常時監視局 (一般環境大気測定局、 自動車排出ガス測定局)	環境省、 自治体	八都県市管内には915ヶ所設置され、大気汚染物質と風向・風速等を観測している。このうち134ヶ所では気温、を観測している
環境省広域測定	環境省	広域のヒートアイランド現象を把握するため、関東、中部、近畿の各圏で気温測定を主体に17ヶ所の気象観測を行っている。関東では7ヶ所で観測を行っている。

3. 2 気温分布の推移

関東平野の気温の高温化状況について、30℃以上の時間数、35℃以上の時間数、夜間（22～6時）の25℃以上時間数の5年ごとの推移を図3-1～3に整理した。

1) 30℃以上時間数の経年変化

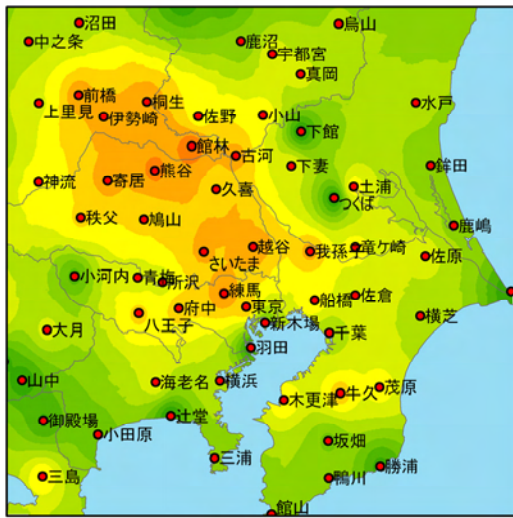
1992年以降、30℃以上時間が250時間を超える範囲が拡大し、最近5年間まで同様の傾向が続いている。

2) 35℃以上時間数の経年変化

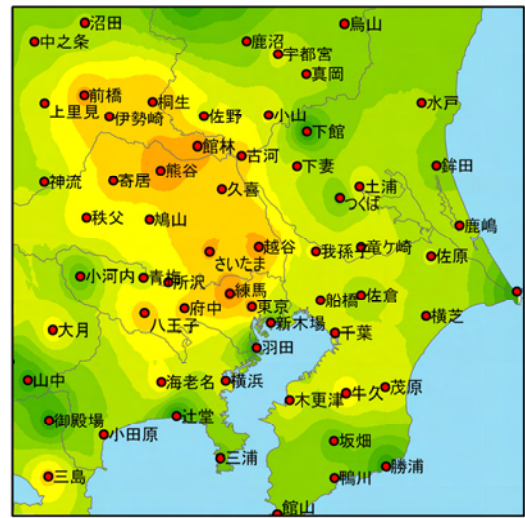
1991年までは35℃以上の時間はほとんどなかったが、1992年以降急激に増加している。地域的には東京・埼玉の都県境から群馬県前橋市までの範囲に北西方向に広がっている。

3) 夜間（22～6時）の25℃以上時間数の経年変化

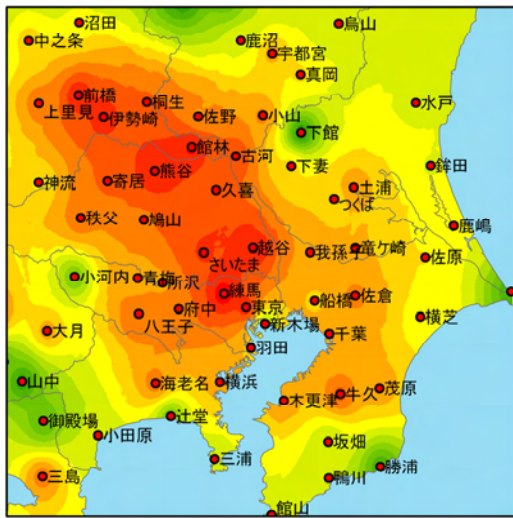
1980年代は東京都心や横浜、千葉で25℃以上時間数が多い状況であったが、東京湾沿岸を中心に次第に時間数の増加がみられる。最近10年では、熊谷、館林でも200時間を超える時間数がみられる。



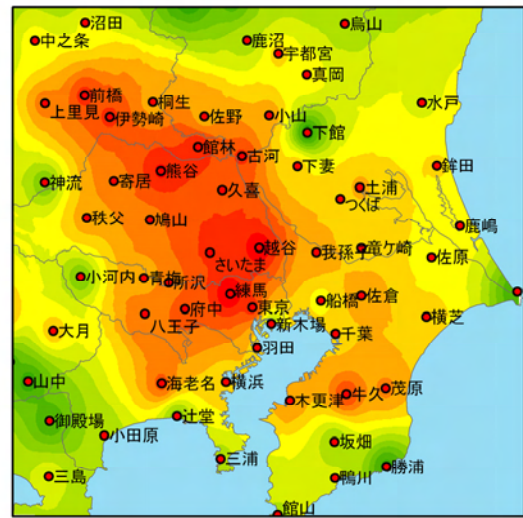
1982～86



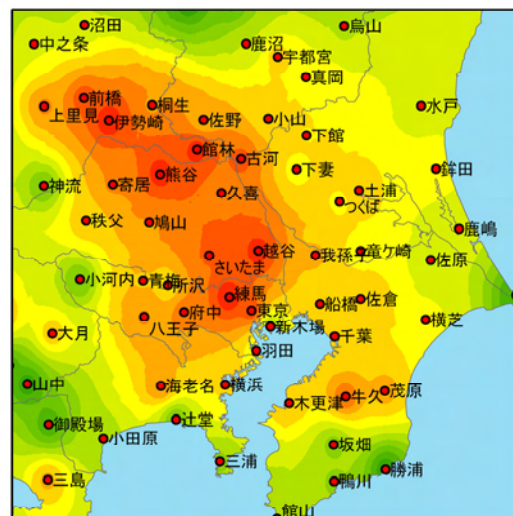
1987～91



1992～96



1997～2001



2002～2006

7・8月の30℃以上時間数/年
(5年ごとの年間平均値) (n=1488時間/年)

凡例

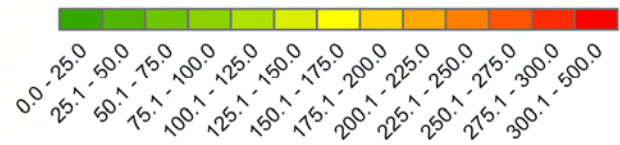
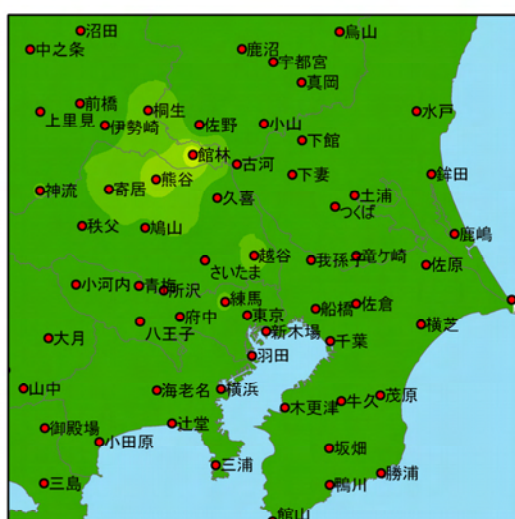
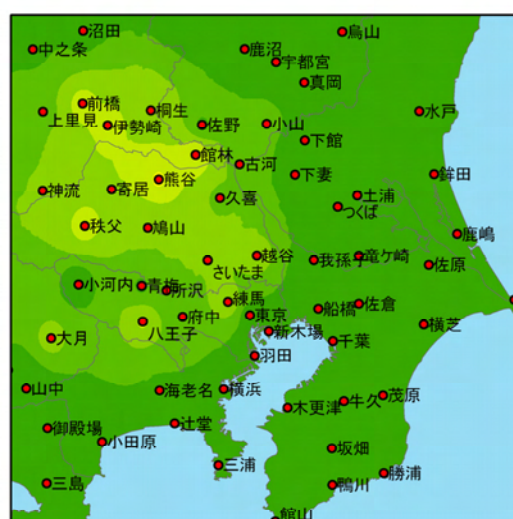


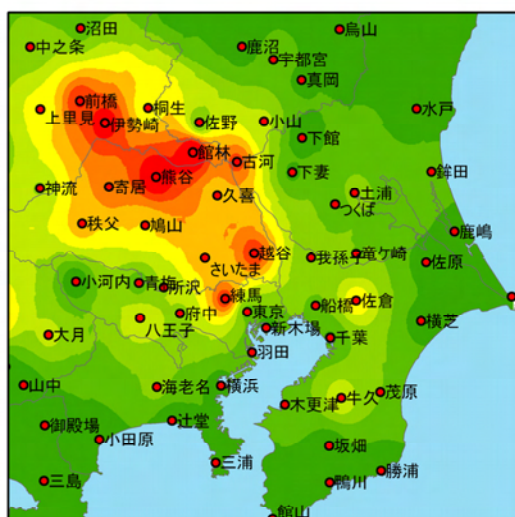
図 3 - 1 高温時間数分布状況の推移 (30℃以上時間数)



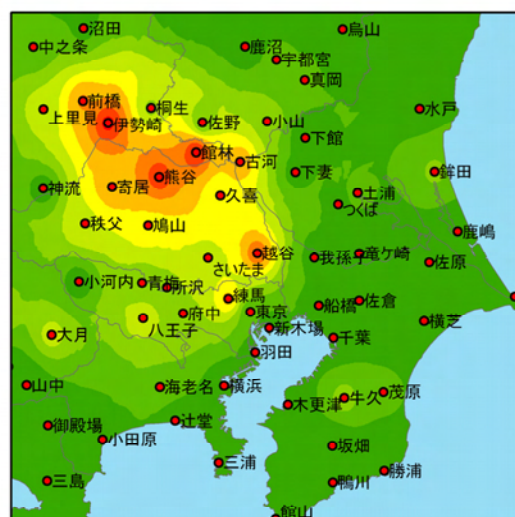
1982～86



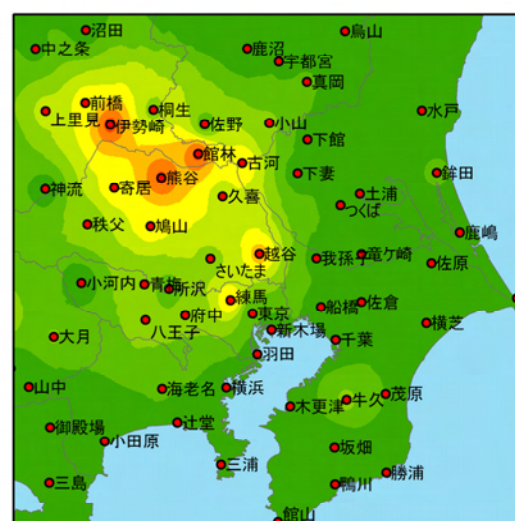
1987～91



1992～96



1997～2001



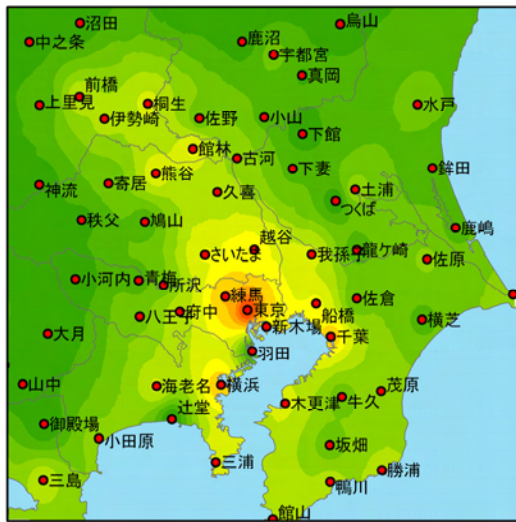
2002～2006

7・8月の35℃以上時間数/年
(5年ごとの年間平均値) (n=1488時間/年)

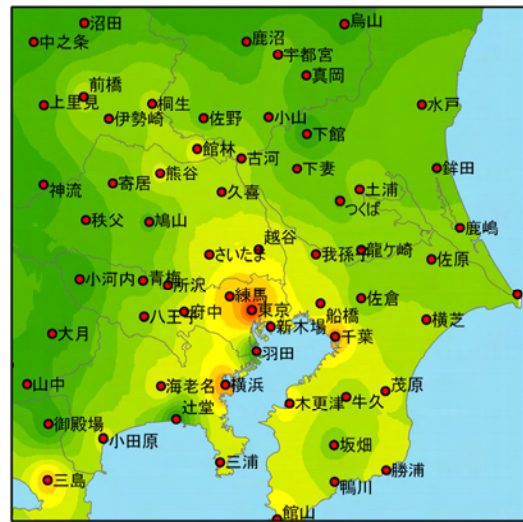
凡例



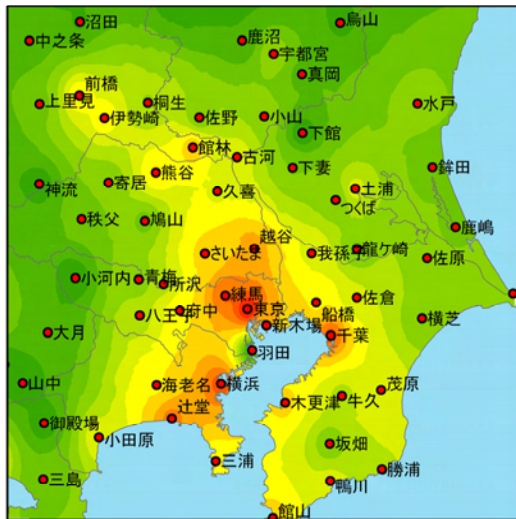
図3-2 高温時間数分布状況の推移 (35℃以上時間数)



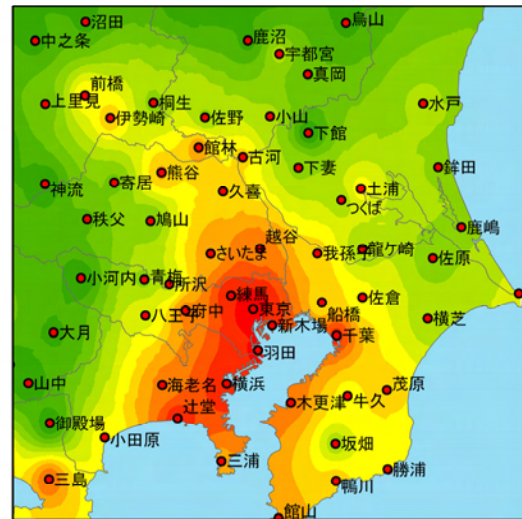
1982～86



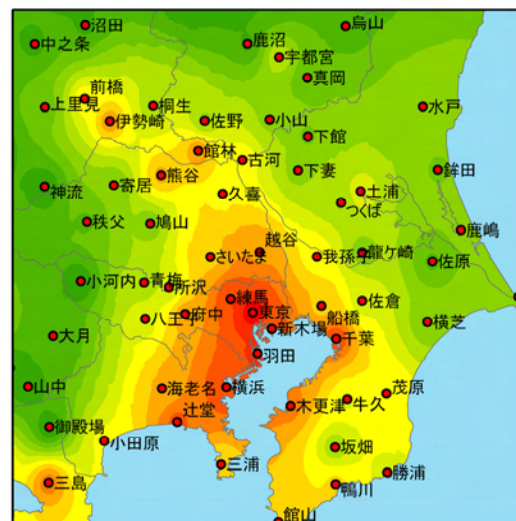
1987～91



1992～96



1997～2001



2002～2006

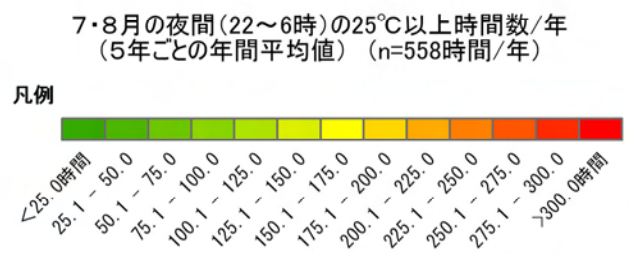


図3-3 高温時間数分布状況の推移(夜間25℃以上時間数)